

第 72 回沖縄県新型コロナウイルス感染症対策本部会議

議事概要

日 時：令和 3 年 1 月 14 日(木) 15：30～16：30

場 所：県庁 6 階 第 1・2 特別会議室

○ 会議の概要

<報告事項>

- ◇ 県内における新型コロナウイルス感染症の感染者数や広がり状況、医療提供体制等について、それぞれ所管する本部員から報告があった。
- ◇ 「感染拡大を食い止めるための緊急特別対策」の「4 県外との往来について」の対象都道府県について、国の緊急事態宣言発令地域の追加に伴い更新することについて、総括情報部より報告があった。
- ◇ 「沖縄県における疫学状況と今後の見通し」について、専門家委員より報告があった。

1 参加者

玉城 知事、謝花 副知事、富川 副知事（リモート参加）、島袋 政策調整監、金城 知事公室長、池田 総務部長、宮城 企画部長、松田 環境部長、宮沢 県警本部長、大城 保健医療部長、名渡山 子ども生活福祉部長、長嶺 農林水産部長、上原 土木建築部長、嘉数 商工労働部長、下地 観光政策統括監、伊川 会計管理者、金城 教育長、我那覇 病院事業局長、棚原 企業局長、真栄城 医療企画統括監、糸数 保健衛生統括監、高山 県専門家会議委員

2 報告事項

(1) 沖縄県内における新型コロナウイルス感染症患者の発生等について

- 総括情報部から前日時点の新規陽性者及び療養者の状況について報告【資料 1】
 - ✓ 成人式関連の感染が 3 人確認されている。
- 病院事業局から県立病院に入院している患者の状況等について報告
 - ✓ 北部病院、八重山病院で入院患者が多くなっている。
 - ✓ 八重山病院には今週・来週と応援看護師を 2 名派遣し体制を確保する。
 - ✓ 非コロナ病床は、中部病院が 100%を超えており病床確保が難しくなっている。

(2) 米軍基地内における新型コロナウイルス感染症患者の発生等について

- 総括情報部から、米軍基地内で確認された新規感染者数について報告【資料 2】
 - ✓ 本日は、8 名、嘉手納基地、キャンプハンセン、キャンプキンザー等で確認されている。

- ✓ これまでは入国検疫解除の方がメインであったが、県外旅行後のスクリーニング検査のようなもので確認された事例が確認されている。

(3) 沖縄県内及び全国の感染状況について【資料 3、3-1～3-9】

- 総括情報部から、警戒レベル判断指標の状況や各種分析資料について報告
 - ✓ 県指標では療養者数、病床占有率、新規感染者数が第 4 段階に該当している。
 - ✓ 国指標でも療養者数、病床占有率、新規感染者数が第 4 ステージに達している。
 - ✓ 現在、宮古地域が医療フェーズ 5、その他地域はフェーズ 4 だが、県内全体の病床占有率が上昇し始め、フェーズ 4 の数値を超え始めていることから、本日、県内全体を医療フェーズ 5 に引き上げたいと考えている。
 - ✓ 非コロナの病床利用率は、中部地域が 102%と 100%を超えており、県内全体でも 93.8%に達している。
 - ✓ 直近 1 週間の人口 10 万人当たりの新規感染者数は 29.24 で 12 位、全国平均 35.35 となっており、全国の伸びも著しい状況である。
 - ✓ 県内の地域別の感染状況を見ると、特に南部と那覇が右肩上がりでも増加している。八重山は横ばいであるが、宮古は増加してきている。
 - ✓ 若い感染者が多く、感染者に占める 60 歳以上の割合は、毎週、20%程度で推移しており、高齢者の方が増えている状況にはない。
 - ✓ 酸素投与が必要な重症・中等症患者は合計 94 名となっており、先週 67 名と比べて、急上昇しつつある。12 月上旬の頃の水準となっており、これが 100 名を超えると 8 月の感染が拡大した時のような状況になって、これは病院にとっても逼迫の要因となり注意が必要となる。
 - ✓ インフルエンザは確認される方が少ない状況で、抑えられている状況となっている。
 - ✓ 移入例の速報値は合計 123 名で、全体の発生者数に占める割合が 8%、そのうち移入例に占める 1 都 3 県からの割合が 61%となっている。1/5 以降も移入例の割

合が増加傾向になっている。

(4) 宿泊施設の運用状況について

- 総括情報部から、各地で運用している軽症者用宿泊療養施設の状況について報告

【資料 4】

- ✓ 合計 136 名の方が療養していて、現在は北部も石垣も宮古も稼働している。

(5) 沖縄県人口変動状況について

- 総括情報部から KDDI Location Analyzer による滞在人口分析データを用いた状況について報告【資料 5】

- ✓ 繁華街エリアは直近では軒並み抑えられていて、各地点とも約 3 割減の数値を示している。

(6) クラスターの発生状況について

- 総括情報部から、最近確認されたクラスターの状況等について報告

- ✓ 年末年始にかけてのクラスター案件として、一昨日、スナックのクラスターを報告しており、今後は、職場関連や飲食での案件が予想される。

(7) 宮古・八重山地域の感染状況について

- 総括情報部から、宮古・八重山地域の感染状況について報告【資料 6】

- ✓ 宮古は療養者数 16 名、新規感染者が 6 名確認されている。八重山地域は、重症者 2 名を受け入れているが、これ以上の受入が困難なため、一昨日沖縄本島に搬送し治療を受けている。

(8) 感染拡大を食い止めるための緊急特別対策について

- 総括情報部から緊急特別対策の内容更新について報告【資料 7】

- ✓ 国の緊急事態宣言発令地域が追加されたことから、県の「感染拡大を食い止めるための緊急特別対策」の「4 県外との往来について」の対象都道府県を更新すること、及び広報用資料を前回の緊急特別対策と同様なデザインで発信する予定であることについて報告。

(質疑応答)

- 非コロナ病床数の変動理由について質問。
 - ✓ 日々の具体的な変動理由は把握していないが、コロナ病床を確保するために、スタッフの異動等で非コロナ病床の病床数が減少していること等が想定される。
- おきなわ彩発見キャンペーン事業については、検討中という認識で良いか、販売時期について質問。
 - ✓ 準備は進めているが、感染状況を注視しながらという考えであり、記載どおりとなっている。
 - ✓ 現時点でまだ販売はしていない状況。

<その他報告事項>

- 総括情報部から緊急事態宣言時の各判断指標等の考え方について報告
 - ✓ 国の緊急事態宣言の発令及び県の緊急特別対策発出の効果を確認するため、ここ数日の感染状況を注視する必要がある。特に3連休の影響及び重症中等症者の人数について分析したい。
 - ✓ 県警戒レベルの各判断指標のそれぞれの状況、新規感染者数の推移、病床の占有率や今後の増床状況、及び医療機関での治療を必要とする感染者数などを総合的に判断した上で、緊急事態宣言を要請するかどうか検討する旨報告。
- 文化観光スポーツ部からTACOの週間実績及びリッカの登録状況について報告
 - ✓ TACOの状況は、1月4日から1月10日までに発熱の感知はなく、電話対応14件、うち健康相談・問診実施数は3件となっている。
 - ✓ RICCAの状況は、1月14日時点で44,000人余りと前回から2,400人余り増えた。登録事業所数は3,171件と、先週から810件増加している。
 - ✓ この登録事業者数は、ハピトク沖縄クーポン、営業時間短縮協力金の要件にRICCAを加えた影響で増加している。シーサーステッカー（QRコード無し）登録済みの

企業に対して RICCA 登録依頼を行っている。

(9) 沖縄県における疫学状況と今後の見通し【資料 8】

- 専門家会議委員より沖縄県における疫学状況と今後の見通しについて報告。
 - ✓ 収束の見通しがまだ立たず、今月いっぱい感染者が増加していくことを踏まえて、対策を強化していく必要がある。
 - ✓ 世界の状況：英国は急速に患者数が増加しているが、その理由は変異株の影響。病原性は下げないまま感染力を高めたウイルスが世界に広がろうとしている。
 - ✓ 日本の状況：年末年始に急速に増加し、死亡者数も増えている状況。
 - ✓ 沖縄の状況：1月6日に91人が発症している。感染して概ね5日で発症することから、正月の親族回り等で感染が広がっている。今後、三連休や成人式等お年寄りと若者たちとの接触機会の影響は、今月中は受け続けると考えられる。
 - ✓ 入院患者数：緊急特別対策のおかげで、正月休みは一旦減らすことができ医療崩壊を免れることができたが、現在は緩んできている。冬は体調不良者が多く、夏と同じ流行が起きると、医療崩壊がリアルに心配される。重視すべき指標としては、中等症以上の人たちが必ず入院できる体制を取っていくという意味で、この数字は注目したい。その一步手前として入院待機者の数字も重要。入院待機者から死亡者が出ているのが東京で確認されているとのことである。
 - ✓ 外出状況：4月、7月末の自粛要請の時には、県民が反応して行動し、活動自粛をしていたことがよくわかる。12月14日の後は余り反応が良くない。ただ、通常の年末はもっと跳ね上がるように高まるものを平坦にした効果はあったのかもしれない。東京での大きな流行を受けて県民も警戒感が出ており、これを維持させることが、今月末でピークアウトさせていく上では、重要である。
 - ✓ 性年齢階級別症例数：20代の男女が一番多い状況は、7月末とそっくりである。県民に幅広く感染を広げながら若い人たちが活発に動き回っている印象が強い。

感染の立ち上がりは、どこでも若い人たちの流行から始まり、次に中高年へと2次感染3次感染が広がっており、今の流行は始まったばかりである。

- ✓ 渡航歴：帰省関連が多いのが今の特徴である。通常の倍の渡航者関連の陽性者が出ている。
 - ✓ 実効再生産数：現在は1.69。県外が大きく流行しながら、県内の流行を抑え込んでいくという難しいことにチャレンジする必要がある。
 - ✓ 263人という入院患者数の発生見込みの推計は近い値と考えている。今、新規感染者数が減っていくという安心できる材料がほとんどない。躊躇なく強力なハンマーを打つのは今である。東京などが経験していることを反面教師的に学ぶことがあると思われる。先延ばししても失うものばかりである。
 - ✓ 地域における感染拡大を防止する取組として、飲食の場は重要な場となっており、「5人未満ならよい、早い時間は良い」という話ではなく、「一緒にくらしている人だけで食事をしてください」というメッセージを送らないといけない。
- 専門家会議委員の意見（まとめ）
- ✓ 流行拡大地域からの不要不急の自粛：これは既に対策の中で打ち出されている。
 - ✓ PCR検査の推奨：今までは県内の流行が大きかったが、現在は県外の流行が大きいため、渡航前の検査を推奨する。緊急性の高い渡航者には、自費でいいので空港で検査が受けられる体制を整備する。
 - ✓ 感染予防の徹底：陰性が確認されれば非感染というわけではない。到着後2週間については周囲への感染予防を徹底することをセットで言わなければ、検査を受ければもう大丈夫という逆効果になりかねない。
 - ✓ この体制を取っていくことは、今の流行を抑えていくというだけではなく、今後、イギリス変異株が本土で大きな流行が起きたときに、さらに対策を強化していくときに、大きな布石となる。

(質疑応答)

- 大学受験で本土に行く際の生徒に対する学校側への周知内容について質問。
 - ✓ 試験だけ受けて、食事は最低限で一人で行い、まっすぐ帰るようにメッセージをしていただきたい。
- 重症中等症数や自宅待機者の目安の数について質問。
 - ✓ 中等症以上の入院患者数：100人というのが一つの数値。8月や12月に突破した時期がある。100人を超えると危機感が増す。
 - ✓ 待機者：夏は400人を記録したが、100人を超えてくるとかなり危ないと考えられる。待機状態で7日以上たつと危険。待機者がいても数日以内で処理できている状況であれば、まだよい。
- 飲食関連の広報内容について質問。
 - ✓ 4人以下は誤解をかなり招いている。3人以下で飲んだのになぜ感染したのかと医師が叱られている。都合のいい方向に解釈するというのが人間の感情なので、同居する家族など固定した親しい人に限るという表現ではと思う。
- 国の緊急事態宣言を発令された地域に沖縄県の状況が近いのかどうか質問。
 - ✓ 臨床医は、最悪をイメージして、その時に患者さんが耐えられるように体制を整えるというのが、身につけていることであり、本当に医療崩壊するのか、危機に直面しているのかどうかはわからない。本土のあの流行の状況を見て、県民の今の緩んでいる状況を併せて考えると、今よりさらにひどい状況がくるということは言える。緊急事態宣言については、県民に行動抑制をお願いする以上、それに対して協力していただく事業者の方々に補償をどこまでしていただけるのかとセットであると思われる。

(その他意見)

- 沖縄県は条例を先んじて制定し、国が緊急事態宣言していない中で、独自で緊急事態宣言ができる条例の立て付けになっている。国の動きを見ながら、しっかりと県の指標を注視し、専門家の意見を聞きながら、後手にならないような形で警戒をしてここ数日間見ておくことが大事だと考える。
- 難しい判断があることはわかるが、緊急事態宣言を想定した議論をする必要がある。ある日突然言われて慌てふためかないように、厳しい状況も鑑みて、その中で、旅行需要も消える可能性もあるので、どこの需要を掘り起こすか、消費需要を考えていく必要があるので、商工・観光・農水と連絡しながら対応していきたいと考える。

4 閉 会